



TRAM SYSTEM

NEWS LETTER

Ver. 2014. 12

今月のコンテンツ

まったなし！

Windows Sever 2003 サポート終了

◎ **OS移行の前に押さえておきたいキーワード**

- ・仮想化サーバー
- ・クラウド

◎ **Windows Sever 2003 からの移行**

- ・単なる入替では終わらせない
- ・4ステップの移行手順



2014年12/3 はやぶさ2の打ち上げが無事成功しましたね。

初代はやぶさが目指した「イトカワ」はS型と呼ばれる石 (Stone) でできた小惑星でしたが、はやぶさ2が目指す「1999 JU3」はC型と呼ばれる炭素 (Carbon) でできた小惑星で、水分や有機物が含まれていると言われています。地球ではマグマ等で消滅した過去の有機物が残っている可能性があるとして太陽系や地球の誕生、生命の起源に迫ることができるそうです。アポロの時代の関心がそのまま継続していれば今頃月に人が住めたとも言われてますから、また宇宙への関心が高まると良いですね。

◎ OS移行の前に押さえておきたいキーワード

・仮想化サーバーとは

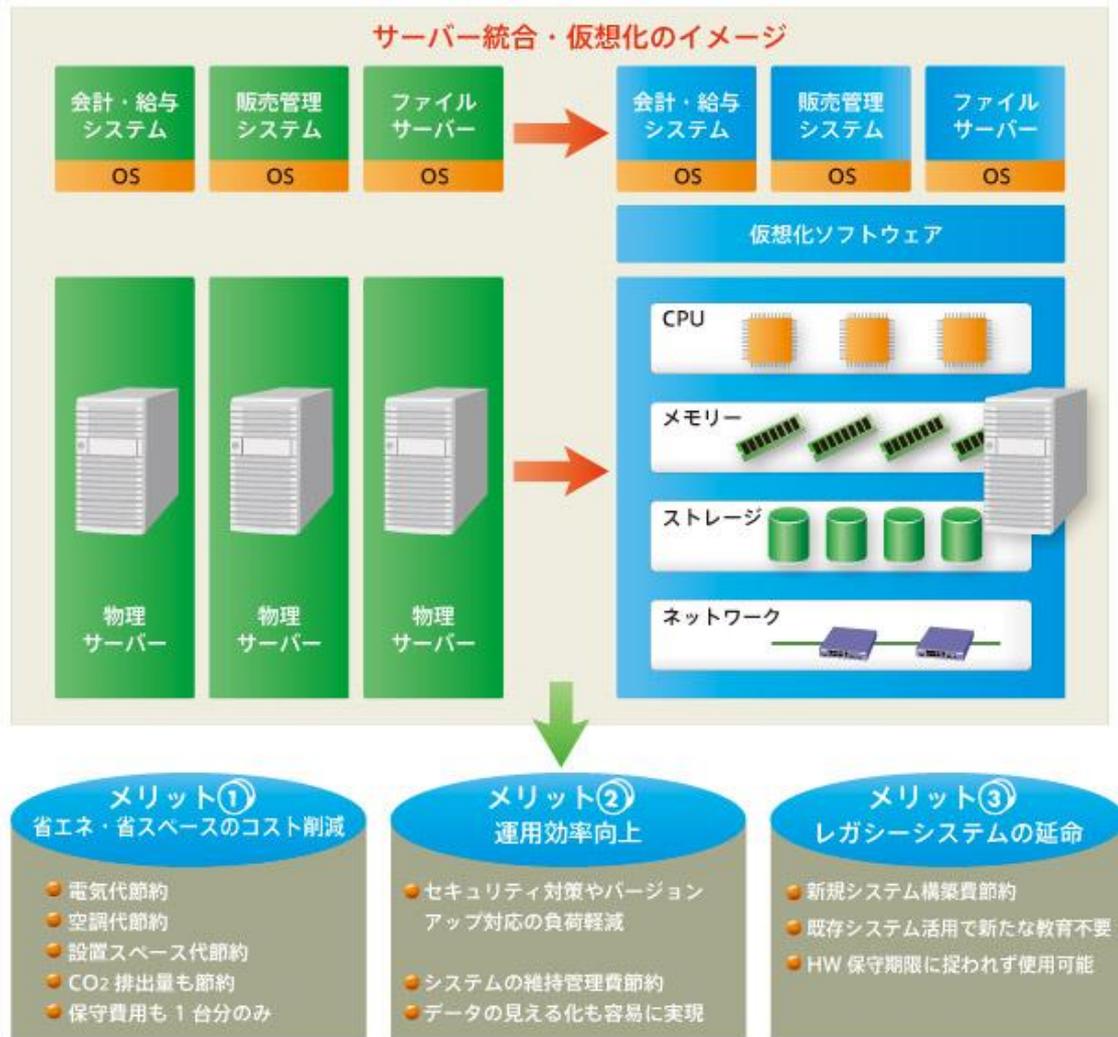
2014年4月にサポート終了を迎えた「WindowsXP」の更新を終えたのもつかの間、息つく暇もなく今度はサーバーOSのサポート終了対策をせまられています。

「Windows Sever 2003」のサポート終了は2015年7月と残り一年を切っています。これ以後はセキュリティパッチが提供されないため、新OSへの移行などの対策が急務です。

早速サーバー移行手順のご説明をしていきたいところですが、その前に2003が登場した12年前と比べ、現在のハードウェアは驚くほどの進化を成し遂げています。

その進化の代表格である2つのキーワード「仮想化サーバー」と「クラウド」についてまずは押さえておきましょう。

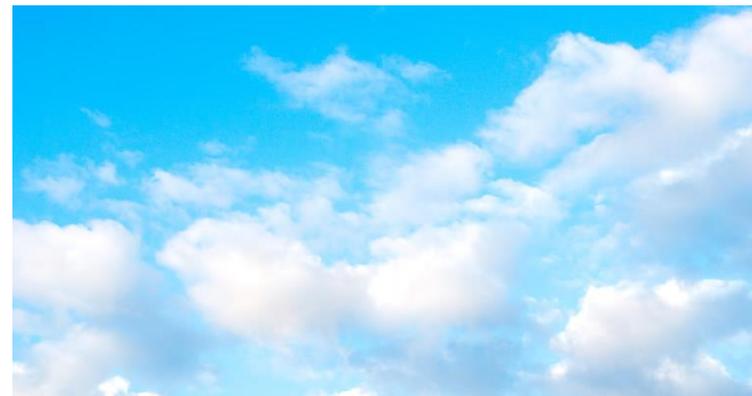
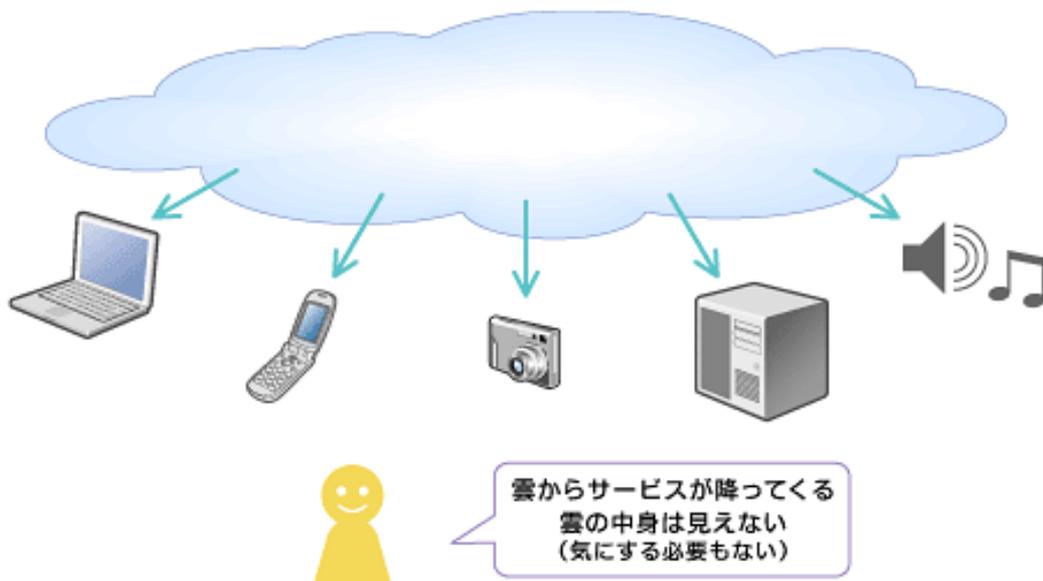
右の図のように、元来1台のサーバーに対して1つの環境しか構築できず、システムの数だけサーバーが必要だったものが、仮想化技術の出現によって**1台で複数のシステムを構築可能**になりました。



◎ OS移行の前に押さえておきたいキーワード

・クラウド

次に、ご存知の方も多いかと思いますがクラウドとは、cloud(雲)の意味です。従来は、ユーザが自分の携帯電話やパソコンの中に、ソフトウェア、データなどを保有し、使用・管理していました。しかし、クラウドの場合は、ネットワーク上にあるサーバの中に、ソフトウェアやデータが存在し、ユーザは必要に応じてネットワークを通じてアクセスし、サービスを利用します。



クラウドは不特定多数の利用者のさまざまな要求に対し柔軟かつスピーディに応える必要があり、そのインフラリソースに莫大な負荷が掛かるのは容易に想像が付きます。これを支えている技術が前述の「仮想化技術」なのです。

仮想化によってサーバー内のリソースを有効的に最適化させ、少ないサーバー数でクラウドに必要なエネルギー消費を抑制しています。

仮想化技術があってこそ、世界規模のクラウドが実現されているんですね。

◎ Windows Sever 2003からの移行

・単なる入替では終わらせない



それではいよいよ本題のWindows Sever 2003の移行手順についてですが、まずは「何のために移行するのか」という事を考えるのが一番重要になってきます。

現在利用しているサーバー環境をそのまま移行させて、同じように業務などが行えるようにするのも1つの手です。しかし、前述の「仮想化」「クラウド」の登場やデバイスの多様化、震災後のBCP(事業継続性計画)対応など、2003当時とは、ITを取り巻く環境は激変しており、長期的なコストメリットを考えた施策やビジネスの競争力を高める施策をITの力で行えるように「攻めのリプレース」という考え方も必要になります。

OSの入替と聞いて正直「またか」と思われた方も多いと思いますが、ITを取り巻く環境の変化を考えると、例えサポートが切れてなかったとしても、そのまま使い続けるには「業務効率」「省電力」「セキュリティ」の観点からも切替の時期がきているのは間違いありません。

たとえば、インテルの当時のサーバーに搭載されているプロセッサー(Xeon)と最新のプロセッサー(Xeon E5-2600v3)の整数演算性能を比較すると約130倍にもなっています。旧プロセッサーが1時間かけて計算するところを1分で終わらせることができるわけです。

また、セキュリティ面でいえばWindows Sever2003と2012で比較した場合、ウィルスの感染率は約10倍です。

まさに切替の時期がきていることが分かるかと思えます。



◎ Windows Sever 2003からの移行

・4ステップの移行手順

Windows Sever 2003からの移行手順は、以下の4ステップからなります。



棚卸し

アプリケーション
パッケージソフト

ミドルウェア
(DB、APサーバー)

CPU、メモリー、
ネットワーク

各種ライセンス

最初に、しっかりとした棚卸しを行って、現在のサーバー環境を分類しておくことが重要です。ここでの取りこぼしは移行後に致命的なダメージを負う事に成りかねませんので特に入念に調べましょう。

稼働中のアプリケーションやミドルウェアを把握し、稼働実績から必要なCPUやメモリーの見積り。何のために利用しているサーバーかを見極め、場合によっては移行の対象から除外してしまうことも考えねばなりません。

◎ Windows Sever 2003からの移行

移行方法

アプリケーション
の修整

ソフトのバージョン
アップ

サーバーの仮想化、
統合

システム再構築

棚卸したサーバーごとにどのようなシステムを構築するかを考えていきます。
Webアプリケーション・ミドルウェア・パッケージソフトなどは移行が容易ですが、スクラッチで構築された業務アプリなどは、場合によって再開発が必要になるパターンもあるので要注意です。
「攻めのリプレース」で行くならこの段階で付加価値のある新たなアプリケーションを構築することを考えます。

移行先

オンプレミスで
バージョンアップ

Windows以外の
プラットフォーム

パブリッククラウド
IaaS

パブリッククラウド
SaaS

移行するサーバーOSを選択します。機能的にもサポート期間的にもWindows Sever 2008よりも2012を選択したほうが有利ですが、2008からダウングレードして2003を利用している場合は、ライセンスコストの面で2008のほうが有利となります。

2003でのシステム構築時は、オンプレミスがほとんどでしたが、移行先としてクラウドの利用も検討したいところです。たとえば、基幹システムなどは自社サーバーに、顧客情報・商品情報などはクラウドにあげて営業がスマホやタブレットから見やすくするなど。

(同時に、外から見れる情報は役職や部署ごとにロックしておくことも重要です。)

◎ Windows Sever 2003からの移行

移行作業

移行テスト

移行手順書の作成

移行作業日の確保

移行作業の実施
確認

そしていよいよ「移行作業」です。ここまでの3ステップをきっちり進めてきていれば、移行作業自体はそんなに難易度は高くありません。ただ、思い通りに行かなかった場合を想定した時間配分や人材配置が重要になってきます。

ここまで駆け足でご説明してきましたが、イマイチ実感がわかない方や、「とはいえ何から始めればいいのかわからない」という方は遠慮なくトラムシステムまでお問い合わせください。移行手順4ステップはもちろん、この先を見据えたサービス展開まで一緒に考える体制が、DELLやHPといった大手サーバーメーカーのサポートを含めて整っております。

情報は保存しておければ良いという時代は確実に終わりを迎えています。情報を保存している筐体で「セキュリティの向上」「業務効率の向上」「新たなサービス展開の創造」を低コストで実現していかなければなりませんし、それが出来る時代でもあります。一緒にIT技術を駆使しつつ、2015年を飛躍の年としましょう！



サーバーやITに関してのご相談 お問合せ先

0120-266-642

トラムシステム株式会社
名古屋市名東区新宿2-55